

ヒメとヒコ

ある王の物語

"HIME to HIKO" The story of an ancient king.



「ヒメとヒコ」と象嵌装大刀との出会い。
そして新たな物語の誕生へ。

そのことに着想したのが「ヒメとヒコ」の生みの親であり、舞台の演出もされている鹿屋市文化会館館長でもある松永太郎さん。「鹿屋に生まれ育った自分にとって、若い頃はあまり地元文化や歴史に興味が持てませんでした。」そして高校卒業と同時に東京へ。その後海外留学、沖縄移住の後、鹿屋へ帰郷。「外に出て、鹿屋に戻ってきた時に、



ミュージカルを楽しみながらも、大隅の歴史や文化に触れることができる「ヒメとヒコ」。観ればきつと、自分たちが住んでいる場所のことを、もっと好きになれるはず。ちなみにこの「ヒメとヒコ」メンバーの合言葉は「大隅大好き！」。舞台を通じて、高校生達の地元を愛する気持ちが伝わってくるようです。

初めて鹿屋にまつわる歴史や文化の素晴らしさに気付くことができました。「その思いが生み出した「ヒメとヒコ」には、鹿屋で発掘された貴重な歴史的遺物が多く取り入れられています。『象嵌装大刀』という大刀の発見にまつわるエピソードなどは、歴史的背景を考えると、たいへん興味深く、今回台本を書き変えたほどです。」



高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」を知っていますか？鹿屋の高校生を中心に構成されたこのミュージカルは、高校生とは思えない演技や歌、ダンスのレベルの高さが評判となり、県内各地で公演されている、プロ顔負けのミュージカルです。その「ヒメとヒコ」の舞台となっているのは、15000年前の大隅と奄美。これは実際に大隅の歴史や文化財などの資料を基に、ミュージカルとして創作されたものです。実は大隅は県内でも歴史的にも重要な史跡や遺物が、数多く発見されている場所なのです。

舞台は
1500年前の大隅。
プロ顔負けの
高校生ミュージカル。



劇中には象嵌装大刀が取り入れられ、印象的なシーンで使われている。